

第8回アジア太平洋作業療法学会 (The 8th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2024)

作業療法学専攻 専攻長 岸村 厚志

4年ごとに行われるアジア太平洋作業療法学会（Asia Pacific Occupational Therapy Congress : APOTC）の第8回大会が、2024年11月6日～9日に北海道の札幌で開催された。APOTC(第6回2015年：ニュージーランド)は、私の国際学会初舞台であり思い入れのある学会であった。その学会が日本で開催されることになり、是非とも発表したいと考えていた。更に可能であれば、自分がそうであったように、自身のゼミ生にもいずれ国際学会の経験を積ませてあげることができればと考えていた。今回は、その機会に巡り合うことができたので報告する。

私の発表タイトルは、「スライディングボードを用いた3種類の移乗介助方法の腰部負担の比較（Comparison of Back Burden of Three Transfer Assistance Methods Using a Sliding Board）」であり、ベッドと車椅子間の移乗を抱え上げずに、スライディングボードを使用して滑らせて介助する方法の比較である。前回2015年からどれだけ成長できたかを自問すると、特に英語力では更なる精進が必要だと感じる機会となった。

ゼミ生（作業療法学専攻4年 関口茉那さん）の発表タイトルは、「自立生活センター利用者のQOL調査（Quality of Life Survey of Users of the Center for Independent Living）」というものである。自立生活センターを訪問し、1人あたり1時間近くのインタビューの時間を頂き、基本属性として、疾患名、障害支援区分、サービス利用状況、リハビリテーションを受けた期間と内容、自助具の使用状況などの情報と、SF-8(健康関連QOL[HRQOL: Health Related Quality of Life]尺度、以下SF-8と略す)、カナダ作業遂行測定（Canadian Occupational Performance Measure）の情報を収集した。その中から今回はQOLに焦点をあてた発表であった。研究全体としては3施設24名の情報を収集したが、学会エントリー段階ではまだ1施設のみのデータであり8名の方の結果を発表した。

8名の利用者の内4名が障害支援区分6で最重度の要介護者、2名が区分5、残り2名は区分4であり、重度な介護が必要な方々の集団であった。SF-8で国民標準値50を上回ったのが「活力」という項目であり、重度な介護を必要とする皆さんであったが、活力にあふれており、ご自身でしたい作業が明確で、インタビューをしている私たちが元気を頂ける機会が多かった。

ポスター発表では、ほとんどが日本人であったが、あえて英語でのプレゼンテーションをする機会を頂いた。また、車椅子ユーザー用のアプリの研究をされている方との情報交換により、本研究の次に行いたい研究のヒントも頂くことができた。

ウェルカムパーティーやガラディナーにも参加し、日本作業療法士協会山本会長やWFOTサマンサ会長などとも交流することができて有意義な体験をすることができた。次の目標は、第19回WFOT Congress 2026(バンコク)。ともに英語の勉強に励みチャレンジしたい。

